

総合的な学習の時間「紫野タイム」学習指導案

指導者 京都市立紫野小学校 細井 晃枝

1. 日 時 令和4年2月4日(金) 第5校時(14:00~14:45)

2. 学年・組 第5学年2組(23名)

3. 場 所 5年2組 教室

4. 単 元 名 「地域に生きるー防災ー」5月~3月 総時間42時間

5. 単元の目標

自然災害が起こった際に、「いつ」「誰が」「どのように」助けているのかについて、「自助・共助・公助」に触れ、自然災害発生時の周りの人への感謝の気持ちに気付き、そこから自分たちにもできることを考え、全校や地域の方に発信していく活動を通して、「地域に生きる一員」としての自覚をもち、自然災害に関わる人や防災意識に対する自分の見方や考えを深めることができる。

6. 単元の探究課題と育成を目指す資質・能力及び評価標準

【探究課題】自然災害について知り、「防災意識」を高め、自分たちにできることを考える(防災)			
育成を目指す資質・能力 探究課題の解決を通して	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害が起こった際に、「いつ」「誰が」「どのように」助けているのかについて調べ、自然災害発生時の周りの人への感謝の気持ちに気付き、紫野校区の安心・安全を守っていくために、自分たちにもできることがあることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害から人々を守るためにの国や自治体、地域の取組についてまとめ、自分たちにできることは何かを考えている。 自然災害に関わる人や防災意識に対する自分の見方や考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら行動することで、よりよく生きることにつながる素晴らしいを知り、より高い目標を立て、希望や夢をもって生きようとする。それに加えて、「地域に生きる一員」としての自覚をもち、人のために、学校や地域のために役立つことを実践しようとする。
単元の評価規準 観点過程	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の種類について知り、自然災害が起こった際に、「いつ」「誰が」「どのように」助けているのか、「自助」「共助」「公助」に焦点を当て、調べている。 自然災害が起こった際に、様々な分野の方が復興支援していることに気付いている。 自然災害が起こった際に「自分たちにできること」について課題を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の種類について知り、自然災害が起こった際に、「いつ」「誰が」「どのように」助けているのか、視点をもって、実体験や報道等で知り得た情報と関連付けたり、比較したりしながら、疑問や思いをもとに課題を設定している。 (課題の設定) 疑問や調べたいことについて様々な方法から選んで情報を収集している。 (情報の収集) 集めた情報を視点に沿って整理・分析し、課題の 	<ul style="list-style-type: none"> 「自助」「共助」「公助」に焦点を当て、調べることを通して、自然災害が起こった際には、様々な分野の方が復興支援していることに気付き、自分たちにもできることはないか、積極的に課題とかかわっている。 自分の考えを広げたり、深めたりするために、資料や友達の考えに共感したり理解したりしている。

		<p>解決につながる視点を見付け、自分の考えを深めている。 (整理・分析、まとめ・表現)</p>	
提案過程／熟成過程／表現過程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害の種類や大きさによって、被害の大きさが違うことを理解している。 ・ 紫野校区の安心・安全のために、自分たちにもできることを見つけている。 ・ 自分たちがこれから社会を構築していく一員であることを自覚している。 ・ 集めた情報を整理し、それらを図や文章でまとめる方法が分かっている。 ・ 自分たちにもできることがあり、それらを実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紫野校区の防災上の問題、解決すべき課題に沿って、「紫野校区の安心・安全」のために「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」を開催する計画を立て、視点や見通しをもっている。 (課題の設定) ・ 自分たちが考えた「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」のプランを実行する上で必要な情報を適切な方法で集めている。 (情報の収集) ・ 集めた情報や自分たちの考えを整理・分析し、関連付け、よりよくする方法や考えをつくりだしている。 (整理・分析) ・ 自分の考えた「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」を実現するための提案について分かりやすく伝える方法を考え、表現している。 (まとめ・表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害から紫野校区の安心・安全のために、自分たちにできることを考えようとしている。 ・ 「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」に向けた資料や発表を目的意識と相手意識をはっきりさせた内容にするために、グループで何度も話し合い、粘り強く探ろうとしている。 ・ 「防災」について学習した前と後の自分の防災意識の変容に気付き、これからも「防災」を意識し、学習したことを大切にしながら、家族や地域の方へさらに広めていこうとしている。

7. 探究課題について

社会科の学習において、国土の地形や気候の特色を学習した際に、南北に長い国土であること、各地の地形や高さのちがい等があるために、自然災害が多く起こり得ることを学習した。また家庭科の学習においては、「家族の一員」として生活をより良くしていく役割を学び、高学年として「学校を担っていく立場になっている」ことや「地域に生きる一員」として自覚しつつある。そこで今年度は、「地域の防災」と「自分たちの将来」に着目し、単元を2つ設定することとした。「輝け未来!」の単元では、4年生での学習「2分の1成人式」での夢発表を基に、「働くとは、どういうことか」について、「やりがい」や「誰のために働くのか」を考え、自分たちが将来働くための目的を想起する。

そして、もう1つが本単元「地域に生きる一防災一」である。本単元では、社会科の学習を基に、自然災害の種類を知り、それらが起きたことを想定し、避難場所や避難経路の確認、避難中に起こり得る危険等を「自助・共助・公助」に分けて考えていく。テレビや新聞で、被災した街並みがだんだんと復興されていることは知っていても、「いつ」「誰が」「どのように」携わっているのかは詳しく知らない。そのため、「NHK for school」の動画や資料を活用し、「いつ」「誰が」「どのように」支援しているのかを知るきっかけとした。各自がまとめたことを共有した際に、「共助」「公助」として多くの方が、細かいところまで支援し、支えていることに気付き、驚いていた。この学習活動を通して、「将来、紫野校区を担う自分たちが、今できること」を考えたり、調べたりして、全校の防災意識を高めるために、動画やポスターを作成し、発信した。しかし、活動後の全校アンケートでは、自分たちの目標まで到達しなかった。そのことから、伝え方や伝える方法を工夫し、自分たちの「防災意識」をさらに高めた上で再度、発信していくことを目標として掲げた。そして全校だけでなく、紫野校区の防災意識を高め、安心、安全に暮らしていくことができるようになるために、『「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」を開催したい。』という強い気持ちをもった。そのためにも、国語科で学習してきた表現方法や発表方法を用いたり、社会科や算数科で学習してきた自分の考えのまとめ方を用いたりしながら、取り組んでいけるように、各教科を横断して活用できるようにしていきたい。

また、今年度から本格的に実施されているGIGAスクール構想に基づいて、クラス全体で共有する際には、ロイロノートに自分の考えや想いを書き表したり、全国に「紫野校区の安心・安全」を広めるために、NHK「ぼうさいマップを作ろう」に参加し、活動をブログに挙げたり、防災マップを作成したりとGIGA端末を使用し、積極的に取り組んでいる。

以上のように、児童が探究的な見方・考え方を働かせながら横断的・総合的な学習に取り組むことにより、自ら課題を見つけ、問題を解決していく力や疑問に思ったことを探究していく力、それらのために情報活用能力も身に付けられるような資質・能力を育成したい。今後自然災害が起こった際には、児童が考え抜いた「安心・安全」の取組が生かされることを願っている。

8. 単元構想図

別紙参照

○単元で育成することを目指す具体的な資質・能力に関連する教科等

2年 生活科	<p>「大すき いっぱい わたしのまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で生活したり働いたりしているさまざまな人々がいることを知る。 ・ 地域のさまざまな場所に親しみや愛着をもってかかわり、安全に楽しく生活しようとするよさについて理解する。
3年 社会科	<p>「学校の周りの様子」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり、地図や写真などの資料を活用したりして、校区の様子についての情報の集め方について知る。
4年 社会科	<p>「自然災害からくらしを守る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害から人々を守るために地域や関係機関がどのような対処や備えをしているかを調べ、自分たちにできることを考える。
5年 国語科	<p>「目的に応じて引用するとき」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分析したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。 <p>「あなたは、どう考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることで、示すべき理由や事例などの事実が絞られ、伝えたいことを明確にする。
5年 家庭科	<p>「私の生活大発見」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の一員として、生活をよりよくしようと、家庭の仕事や調理に必要な用具や加熱調理器具の取扱いについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践する。
5年 理科	<p>「台風と防災」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風について、雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて、天気の変化の仕方を調べ、学習したことを生活に生かす。 <p>「流れる水のはたらき」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあることや増水により土地の様子が大きく変化すること理解する。
5年 社会科	<p>「わたしたちの国土」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や地形を知る。 <p>「自然災害を防ぐ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害から国土を保全し、人々の生活を守るために行政機関が様々な対策や事業を進めていることを理解する。

○本時が位置する学習過程の評価・支援計画表

本時が位置する学習過程(全9時間)			④評価の視点と方法
学習課題	活動	子どもの言葉	・主な支援 ●関連する教科等
熟成課題	紫野校区の安心・安全のために、自分たちの「防災意識」をさらに高めよう。		<ul style="list-style-type: none"> ●国語科「目的に応じて引用するとき」 ●社会科「わたしたちの国土」 ●社会科「自然災害を防ぐ」
	<p>①自分たちの「防災」に関する疑問やさらに調べたいことについて話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習やアンケート結果から、もっと「防災意識」を高めないといけないと思った。 友達と「防災」の疑問を共有することで、解決したいことがさらに見つかった。 自分たちのもつ疑問は、全校のみんなも感じていることだと思うから、まずは自分たちで解決して、全校に発信したい。 		<p>①自分の考えを広げたり、深めたりするために、友達と疑問やさらに調べたいことを共有している。</p> <p>【学・人等】 (授業観察・振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの疑問は、全校児童も感じていることであること結び付け、それらを解決していくことで、提案課題の取組を改善することに繋がることを意識できるようにする。 疑問やさらに調べたいことを3つの視点(知識・対策・避難)に分け、見通しをもつようになる。
	<p>②③紫野校区の安心・安全のために、「防災意識—知識」を高めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会科「自然災害を防ぐ」と合わせて学習することで、さらに「防災」についての知識や「自然災害」が起きるしくみを知ることができた。 「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL2022」では、地震のしくみについて、低学年の子にも分かるように、実演できるものを作りたいな。 		<p>②③自然災害の種類や被害の大きさについて理解している。</p> <p>【知・技】 (授業観察・振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都市の防災ポータルサイトや図書室の資料、社会科の教科書を使用する。 ロイロノートに各グループの共有ノートを作成し、資料を使って、前時で出た疑問(知識)を解決する。
	<p>④紫野校区の安心・安全のために、グループで話し合った「防災意識—知識」について交流しよう。</p>		<p>④グループの発表を聞いて、紫野校区の安心・安全のために、被害の大きさや場所に応じた避難の方法を考えている。</p>

- ・紫野校区内でも場所によって、被害の種類が変わるから、場所に応じた避難の仕方を身に付けないといけないね。

⑤⑥ 紫野校区の安心・安全のために「防災意識一対策」を見つけて、まとめよう。

- ・避難するときに、知っておくべきことや必要なものについて、調べよう。
- ・紫野小学校の防災倉庫は、どこだろう。校長先生にインタビューをしよう。
- ・万が一、逃げ遅れた場合、どうやって助けを呼べば良いだろう。
- ・学習を通して、家族でマイタイムラインを作成して、「防災」について話すきっかけになったよ。

⑦紫野校区の安心・安全のために見つけた「防災意識一対策」を交流しよう。

【思・判・表等】

(授業観察・振り返り)

- ・発表を聞いて感じた疑問を話し合い、自分たちで解決する。解決できなかった場合は、次時に調べるようにする。
- ・グループの発表を聞いて分かったや気付いたことは、ワークシートにメモをする。
- ・表現課題で使用するため、ロイロノートに学習内容と振り返りを紐づけして残す。

⑤⑥自然災害から備えられる方法を友達と話し合っている。

【学・人等】

(授業観察・振り返り)

- ・「防災意識一知識」で解決できなかった問題もこの時間に解決する。
- ・マイタイムラインを作成することで、備えることの必要性に気付くことができるようする。
- ・地域の集合場所があることに気付き、「防災意識一避難」につなげられるようする。
- ・避難するときに大切なことを考え、備えることの大切さに気付けるようする。
- ・京都市の防災ポータルサイトや図書室の資料、社会科の教科書を使用する。
- ・ロイロノートで各グループの共有ノートを作成し、資料を使って解決する。

⑦「防災」に対する意識を高めるために、資料や友達の発表等から、疑問や思いをもち、次の活動への課題を見付けている。

【思・判・表等】

(授業観察・振り返り)

- ・地域の集合場所があることに気付

- ・自分たちが知らないことがたくさんあったから、全校のみんなや地域の方にも伝えて、「非常用持ち出し袋」や「マイタイムライン」について知つてもらいたい。
- ・「紫野校区」に焦点を当てて調べることができたから、次の「防災意識一確認」につなげられそうだ。

⑧⑨ 紫野校区の安心・安全のために「防災意識一避難」で町あるきをして、ロイロノートにまとめよう。

- ・ブロック塀が倒れてきそう。
- ・行き止まりもあるね。
- ・危険なところもあるけれど、安全なところもあるから、そこを通ってもらえるように、「ぼうさいマップ」に書き込もう。

⑩ 紫野校区の安心・安全のために「防災意識一避難」で調べたことをもとに、「ぼうさいマップ」を作ろう。
【本時】

- ・自分たちの「防災意識」をさらに高めることができたし、全校に伝えたい内容がはつきりした。「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」では、全校、そして紫野校区全体にも呼びかけ、楽しんで学んでいけるようにしていきたいな。
- ・今度こそ、「紫野校区の安心・安全」のために自分たちにもできることができた。

き、「防災意識一対策」につなげられるようする。

- ・発表を聞いて感じた疑問を話し合い、自分たちで解決する。解決できなかった場合は、次時に調べるようにする。
- ・グループの発表を聞いて分かったことは、ロイロノートにメモをする。
- ・表現課題で使用するため、ロイロノートに学習内容と振り返りを紐づけして残す。

⑧⑨避難場所までの安全なルートや危険な場所を見付け、自分の考えを地図に書き表している。

【思・判・表等】

(振り返り)

- ・避難場所までの安全な場所や危険な場所を見付け、地図にメモする。
- ・メモしたことを共有ノートにある地図に色分けをして、グループでまとめる。

(赤:危険 青:安全 黄:疑問)

⑩体験して得た思いや情報などを、整理・分析し、自分たちの「ぼうさいマップ」を作ることで、防災について考えを深めている。

【思・判・表等】

(授業観察・ワークシート)

- ・自分たちの考えを「ぼうさいマップ」に書き表すために、前時に、ロイロノートに危険なところ、安全なところ、疑問点等を、色分けして整理しておく。
- ・自分たちなりに提案することがある際は、「役立つ情報」アイコンも使用し、「ぼうさいマップ」が「安心・安全」な町づくりにつながることを意識づける。

・表現課題に繋げていくために、これま

	での学習を関連付けて、自分たちにできることを考えられるようにする。
--	-----------------------------------

9. 本時の目標

体験して得た思いや情報などを、整理・分析し、自分たちの「ぼうさいマップ」を作ることで、防災について考えを深めることができる。

10. 本時の展開 (30/42時間目)

学習活動 (○主な発問及び指示・予想される児童の反応)	・指導者の手立て及び支援 ■ICT活用
<p>1.これまでの学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。</p> <p>○本時の学習課題を設定しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前の時間に「町あるき」してロイロノートにメモをしたので、それを基に「ぼうさいマップ」を作成します。 「ぼうさいマップ」に危険マークや安全ルート等を書きたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを把握し、主体的に活動できるようにするために、側面掲示や自分たちでまとめたロイロノートを整理するように促す。 前時までにワークシートに気付いたことをメモしているため、そこから「紫野校区の安心・安全」のルートや解決策等、自分なりの解決法を見出せるようにする。

紫野校区の安心・安全のために「防災意識一避難」で
調べてきたことをもとに「ぼうさいマップ」を作ろう。

<p>2.「町あるき」で気付いたことを基に、グループで自分たちの考えを話し合う。</p> <p>○「町あるき」で気付いたことを基に「ぼうさいマップ」に書き込み、自分たちの考えを話し合いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「細い道がある」 救急車両が通れない。そのことをマップに書いておこう。 「鞍馬口通より南側は行き止まりが多くあるね。」 他の道を通った方が良いことをマップに記入しよう。 「古い建物や誰も住んでいない家がある。」 崩れそだから、避難するときは、東側を歩いたり、他の道を通ったりすることを書いておこう。 提案ポイントもあるから、「役立つ情報」アイコンも入れておこう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの考えを「ぼうさいマップ」に書き表すために、前時に、ロイロノートに危険なところ、安全なところ、疑問点等を、色分けして整理しておく。 ■ロイロノート(資料整理・分析) ■NHK「ぼうさいマップを作ろう」 ロイロノートと「ぼうさいマップ」を同時に操作していくため、操作する児童を決めておく。 ロイロノートに打ち込んだ情報を分析し、「ぼうさい」に焦点を当てた内容を「ぼうさいマップ」に書き込んでいくようにする。 提案がある際は、「役立つ情報」アイコンも使用し、「ぼうさいマップ」が「安心・安全」な町づくりにつながることを意識づける。 グループ内で解決できなかった疑問は、全体交流で共有できることを
--	---

<p>3. グループで話し合ったことを発表し、考えを深める。</p> <p>○グループで話し合ったことを全体交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消火栓があつたけれど、古そうでした。調査する必要があると思いました。 ・ 私たちのグループでも消火栓の話が出ました。近くに住んでいる方に尋ねることができるといいなと話し合いました。「消火栓」のアイコンを入れているけど、調査する必要があると思いました。 ・ 紫野小学校は、「避難所」となっているけれど、多くの方が避難に来られた場合、他の避難場所も書いておく方がいいと思いました。みなさんのグループは、どうですか。 <p>4. 本時の学習を振り返り、次時の学習問題を設定する。</p> <p>○今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町あるきをして、紫野校区をさらに知り、「ぼうさいマップ」に書き込むことができました。場所によって、危険ポイントも多くありました。「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」では、地域の方にも安全な避難ルートを知つてもらうために、「ぼうさいマップ」を配りたいです。 ・ 「ぼうさいマップ」が完成して、うれしいです。アイコンが多すぎるので、もう一度整理して、より見やすい使いやすいマップにしたいです。 ・ 前の発信では、あまり伝わらなかつたから、次はさらに自然災害の怖さをもつと知つて、自分の命を守つてほしいです。そのために、今日作った「ぼうさいマップ」を地域で配ることや、「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」では体育館で被災した町を再現し、避難の仕方を考えてほしいです。それを体験してもらうことで、怖さが分かること、普段から気を付けてもらいたいからです。 	<p>促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提案ポイントや話し合い活動中に出た疑問、発表を聞いて感じた疑問を話し合い、自分たちで解決する。 ・ 発表を聞いて、ぼうさいマップに記載したいことがあれば、追記する。 ・ 調査が必要な場合は、表現課題で時間を取るようにする。 <p>・ 体験して得た思いや情報などを、整理・分析し、自分たちの作成した「ぼうさいマップ」を作ることで、防災について考えを深めている。</p> <p>【思・判・表等】</p> <p>(授業観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの「ぼうさいマップ」が実用性のあるものになったことを実感できるようにする。 ・ 「ぼうさいマップ」がよりよいものになるように疑問が解決できていない場合は、表現課題で解決する。 ・ 表現課題に繋げていくために、これまでの学習を関連付けて考え、自分たちにできることを考えられるようになる。 ・ 具体的に考えられるようにするために、側面掲示や本時までの学習の流れを再確認する。 ・ 振り返る際は、本時の振り返りと次時の活動への想いを書くことができるようになる。
--	---

II. 評価(場面; 視点・方法)

- ・ 体験して得た思いや情報などを、整理・分析し、自分たちの作成した「ぼうさいマップ」をつくることで、防災について考えを深めている。
- (学習活動2・3・4;【思・判・表等】(授業観察・ワークシート)

ループリック

A	B	支援を要する
体験して得た思いや情報などを、整理・分析し、自分たちの作成した「ぼうさいマップ」を作ることで、防災について考えを深め、「THE MURASAKINO BOSAI FESTIVAL 2022」についても自分なりに考えを膨らませている。	体験して得た思いや情報などを、整理・分析し、自分たちの作成した「ぼうさいマップ」について考えている。	防災について自分の思いが書けていない。 →提案課題の学習の流れを確認し、自分の思いを書くことができるようとする。

12. 板書計画

2/4(金)

むらさきのタイム

「紫野校区の安心・安全のために「防災意識一避難」で調べてきたことをもとに「ぼうさいマップ」を作ろう。」

道がせまい



緊急車両が通れない。

空き家がある



倒れてくるかもしれない。
火災が起きたときに、燃え移るかもしれない。

ブロックべいがある



避難するときに時間がかかる。

道はばが広い



避難ルートにしてほしい。

町あるきをして、
そこから考えた
ことを書き込もう。



役立つ情報



危ない情報

13. ICT 活用

町あるきして気付いたことをロイロノートにメモをします。



本時で使用する NHK「ぼうさいマップをつくろう」

